



写真上から、あでやかな舞いのヒーヤイ、地区の大人が演じる狂言、神社に集まり出す来場者、鹿ん舞を見つめる親子、道行きから浅間神社に到着した鹿ん舞



徳山の盆踊は鹿ん舞、ヒーヤイ、狂言の3部構成。その昔、畑の作物を荒らす鹿などを追い払い、豊作を祈ったのが起源とされるが、いつのころからか、舞台上踊るヒーヤイなどを警護する役割へと変化してきているようだ。

徳山の盆踊

徳山地区・8月15日

国指定重要無形民俗文化財の伝統息づく

古来から受け継がれる舞

昭和62年12月28日、国指定重要無形民俗文化財に指定された徳山の盆踊。町内外に多くのファンを持つ伝統の行事である。祭典の仕切りは、持ち回りで当番組が受け持つほか、区交通部、文化部、寿会なども祭りの一端を担っている。祭典当日の8月15日。会場にいた役員に話を聞くと

「雨もなく、祭典を無事迎えられるホッとしています。お昼過ぎには、既に来場者が幾人も来ていて『何時から始まりますか』と尋ねられました。ファンが大勢いることを実感しますね」と話していた。

夕方、浅間神社に到着した鹿ん舞一行は、来場者に大きな拍手で迎えられた。午後6時40分。いよいよヒーヤイが始まる。「待つていました」と言わんばかりに、無数のカメラが舞台上へと向けられた。

ヒーヤイが舞台を降りると鹿ん舞が順番を迎える。

「そーりやあ、うん、はい」のかけ声と共に、舞台周囲を勢いよく駆け回ると、拍手と歓声が境内に響いた。

さらにヒーヤイ、狂言と舞台は続く。来場者は、かたときも目が離せない様子で舞台を見つめていた。



1 夕方6時半の千頭駅前。盆踊りを楽しみにしていた人たちが続々と集まり出した 2 犬を連れて参加する人の姿もあった 3 中原康夫さんがたたく太鼓の音が祭りのムードを高める 4、5 露店ブースでは、急ピッチで祭りの準備が進められていた 6 金魚すくいも大人気。大人も子ども一緒になって祭りの夜を満喫した

千頭駅前のお母さんたちの思いが形に プチ盆踊り

千頭地区・8月14日

盆踊りにぎわいづくり

8月14日の夜、大井川鐵道千頭駅前で開催されるプチ盆踊り。近所のお母さんたちが発案・主導し、地域の人たちを巻き込んで開かれる小さな盆踊り大会だ。

「お盆なんだから、浴衣姿で盆踊りを楽しみたい。帰省した人を連れて行ける場所をつくりたかった」という中原緑さん。自身も浴衣に身を包み、マイクを持って奮闘していた。

午後6時半、太鼓の音が千頭駅前に鳴り響いた。その音に引き寄せられるかのように、続々と人が集まり出す。それぞれ盆踊りを踊ったり、エレクトーンに耳を傾けたり、たこ焼きや飲み物を買ったりと、思い思いに夏の夜を満喫した。こじんまりと、でも着実に「盆踊りの輪」が広がりつつある。



輪が広がりつつある

昨年に比べ、倍近い人が来てくれたように思います。みんなが楽しそうな顔をしていたので、わたしもうれしくなりました。地区の生涯学習委員会や男性陣、中高生が頑張ってくれ、本当に助かりました。

この祭りが「駅前の盆踊り」として、徐々に浸透していることを実感しています。子どもたちに



中原緑さん（千頭）は、こういった素朴な祭りを感じる「懐かしいにおい・田舎のにおい」みたいなものを伝えたいし、いつまでも忘れないでいて欲しいと思っています。

